

令和3年11月4日  
福井市総務部総合政策課

「第八次福井市総合計画（素案）」に関する  
福井市パブリック・コメント募集の結果

【概要】

福井市では、現在の「第七次福井市総合計画」が令和3年度で終了することから、新たに令和4年度からスタートする「第八次福井市総合計画」の策定を進めています。

総合計画とは、市が総合的・計画的な行政運営を推進するための方向性を示すものであり、目指すべき将来都市像及び、将来都市像を実現するための基本的な方針を明らかにし、市民、関係団体、行政などが協力して福井市のまちづくりを進めるための指針です。

このたび、計画の素案について、パブリック・コメントを実施したところ、市民の皆さんから以下のご意見をいただきましたので、それに対する市としての考えを示し、公表します。

【意見募集結果】

実施時期	令和3年8月30日から9月27日まで
意見提出状況	提出者 7人 意見数 43件
意見提出方法	書面の持参 1人 郵便 0人 ファクシミリ 0人 電子メール 3人 電子申請 3人

## 1 「第1章 福井市の現状」について (P5~14)

	提出された意見	意見に対する市の考え方
1	<p>総合計画に絡められているSDGsについて、市民の方がSDGsとは一体どのようなものなのかを理解することが大切であると思う。</p>	<p>第八次福井市総合計画については、SDGsの推進計画としても位置付け、各種施策に取り組んでいくこととしています。</p> <p>そのため、策定後は、市政出前講座などにおいて、総合計画の考え方とあわせ、SDGsについてもお伝えすることで、市民の理解を深めていきます。</p>

## 2 「第2章 総合計画の基本的な考え方」について (P15~20)

	提出された意見	意見に対する市の考え方
2	<p>第七次総合計画における施策の市民満足度の中で、「公共交通機関の利便性向上」の項目が特に低いという点が気になった。また、他の中核市との比較データにおいても「千人あたりの路線バス利用者数」が他の中核市と比べて少なくなっている。</p> <p>なぜこのような結果となっているのか、その要因を調査して教えて欲しい。</p>	<p>公共交通機関については、えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れや、福井駅バスターミナルの整備、福井鉄道の福井駅延伸などの各種施策に取り組んだ結果、利用者数は増加しています。</p> <p>しかしながら、自家用自動車保有率が高い本市では、日常的に自家用車を使う人の割合が高く、三大都市圏に位置する都市も多く含まれる中核市の中では、相対的にバスの利用率が低くなっています。また、公共交通機関の利便性については「便数やルートの利便性の向上」「低額な運賃」「待合室や駐車場の環境の整備」などを求める意見が多く、満足いただけていない状況です。</p> <p>第八次総合計画では、利用者のニーズを踏まえたダイヤの設定、バスの運行ルートの見直し等を検討するほか、地域拠点や乗継拠点の充実、ICTの利活用などに取り組み、利用者の増加や満足度向上につなげていきます。</p>
3	<p>別途紹介されている「参考データ」のごみ関係の統計では、1人1日当たりのごみの排出量として、福井市の「892g」(令和元年度)は、全国平均(平成29、30年度とも「874g」)を「上回る状況にある」と紹介されていますが、以前には逆の認識を聞いた記憶があります。環境省が毎年「一般廃棄物の排出及び処理状況等について」として発表している全国としての1人1日当たりの排出量は、平成30年度「919g」、令和元年度は「918g」とされており、福井と全国水準との関係は逆ではないでしょうか。</p> <p>「1人1日当たり」の指標は、市民の努力指標として見るより、むしろ、資源の集団的回収分と行政回収分とに分けて算出し、都市(行政+民間)の循環利用システムの良否の指標として見るべきではないでしょうか。</p>	<p>ごみの排出量については、環境省の「一般廃棄物の排出及び処理状況等について」の基礎となる「一般廃棄物処理実態調査」を参考に算出しており、対象としては集団回収分を除いた排出量の比較を行っています。</p> <p>なお、集団回収分を含めると、令和元年度実績は本市は「942g」となり、全国の「918g」を上回る状況です。</p> <p>また、指標の考え方に関するご意見につきましては、今後の政策分析等において参考とさせていただきます。</p>

### 3 「第3章 具体的な政策と施策」について (P21~53)

	提出された意見	意見に対する市の考え方
4	<p>「回遊性向上」のためのレンタサイクルは、外国人旅行者など向けには役立つのかもしれませんが、福井は市民のカーシェアリング需要も伸びない地域のようなため、市民利用にはどこまで適するか疑問です。レンタサイクルの準備はむしろ、観光施策上の需要、観光ルートやターゲットにする顧客層なども合わせて考慮すべきではないでしょうか(車種と場所が全く違って来るでしょう)。</p> <p>一方で、むしろその前に、自転車の利用は環境施策の方でも利用を促進しているわけですから、自転車が安全に走れる道路整備の方が先であり、早急に危険箇所探しをして、統一感のある対処をすることが急務となるでしょう。所管が部局に跨る例であり、事業化で順番を間違えるべきではないと思います。</p>	<p>自転車利用の促進については、「自転車通行空間の整備」「自転車駐車場の整備」「自転車利用の促進」「自転車利用ルール・マナーの啓発」の4つの柱を掲げ、取り組んでおります。</p> <p>このうち「自転車利用の促進」では、市民だけでなく観光客がまちなかを気軽に楽しんでいただけるようホテルや観光・公共施設等と連携し、レンタサイクルサービスの提供を行っています。</p> <p>また、自転車が安全で走れる「通行空間の整備」では、これまで、自転車と歩行者の分離、自転車が通行する箇所の色分けや自転車のピクトグラムを表示してきており、今後も、道路の改修等に併せ、整備を検討していきます。</p> <p>第八次総合計画では、引き続き、環境負荷を低減する自転車利用の促進に向け、市民だけでなく観光客の意見を取り入れ、安全で安心な自転車利用環境整備の向上を図っていきます。</p>
5	<p>北陸新幹線は、大阪までの全線が開通すれば、全く状況が違うだろうと期待しますが、敦賀までの開業の段階では、福井からは今より不便も増えるわけであり、また首都圏からの往来は、時間が僅かに縮まる一方で、料金は若干高くなるでしょう。リモートの定着によってビジネス需要が減る公算も出てきた現在、コロナ禍以前に出されていた経済効果見通しは信用せず、手堅い見直しをした施策が必要と思います。</p>	<p>敦賀開業時の乗り継ぎについては、北陸と関西・中京間の在来線特急の運行本数の維持・拡大と所要時間の短縮などによる利便性の向上を国等に働きかけます。さらに、北陸から関西方面へのアクセスの不便さを解消するため、1日も早い大阪までの全線開業の実現が必要です。</p> <p>コロナ禍後の経済状況の復興を見通すことは難しいところですが、感染拡大防止と社会経済活動を両立する「新たな日常」に対応できるよう必要な施策に取り組んでいきます。</p>
6	<p>越美北線や並行在来線など、定期運行の維持のためには、僅かでも固定の利益が必要になると予想します。人の移動の利便性だけでなく、下支え策として、何かの物流利用を兼ねられないか、といった検討もしておくべきだと思います。</p>	<p>物流利用につきましては、様々な都市で貨客混載の取り組みや実証実験が行われており、県内でも越前市と池田町を結ぶ路線バスなどで導入事例があることから、こうした事例やその結果について収集・研究していきます。</p>
7	<p>活かす対象に「地域資源」や「景観」といったキーワードが使われていますが、福井市には、発掘された結果の物(一乗谷朝倉遺跡、あるいは恐竜のモニュメント)が脚光を浴びているものの、嶺南や奥越・丹南とは違って、身近に長く根付いた、人によって受け継がれた歴史景観は殆どない(あるいはほとんど大事にされてこなかった)のが実態ではないでしょうか。</p> <p>歴史的な遺構に紐づけられたストーリーも、どこかしら新たにわざわざ再構成されたものが多く、本当に奥深い、人の営みに支えられた「地域資源」は見つけられていないのではないのでしょうか。</p>	<p>本市の景観資源としては「福井市景観基本計画」においても整理しており、主なものとして足羽川の桜並木や越前海岸の水仙群生地などの自然や、一乗谷朝倉氏遺跡などの歴史資源のように全国的な知名度もあり、永く市民に親しまれている景観があります。</p> <p>これらの地域の資源は、愛着を持って受け継いでいる地元の人々により支えられていることから、今後も永く引き継がれていくためにも、地域のコミュニティを維持し、次世代に伝えていただけるよう各種の取り組みを進めていきます。</p>

8	<p>養浩館庭園は、金沢の兼六園と比べると、伝統文化の継承とは違う形での洗練努力の結果のように思えます。金沢に比べると、中心市街地に歴史遺構が残っていないというのも、空襲を受けたためだけではなく、今でも建築物をいとも簡単に壊している点から窺える、福井市民特有の傾向によるものだと思います(例えば「響のホール」は名のある人の設計だったそうです)。</p> <p>何でも新しい方が良いと感じる福井の市民性は、金沢に来る外国人や最近の若い県外客層の好みとはかなりズレがあることを、自覚しておくべきだろうと思います。</p>	<p>本市には、養浩館庭園や福井城址、愛宕坂等の拠点や、幕末の志士のゆかりの地など、歴史の深さを表す資源が残っています。さらに、城下町としての発展や、その後の近代化、震災・戦災の復興など、次世代に引き継ぐ歴史があります。</p> <p>これらの歴史資源を生かしながら、本市が将来も魅力ある都市であるために、金沢市等の全国の他都市の施策も参考にしながら、未来志向に立ち、本市の魅力を引き出す施策の展開が重要と考えます。</p>
9	<p>「政策2の③」において、守るべき「歴史資源」や「景観」が何であるかに曖昧な認識のまま、人為的に景観を考えるのは危険であり、「魅力と個性のある景観を創出します」という認識の方針も間違いだと思えます。</p>	<p>本市の景観資源については「福井市景観基本計画」においても整理しており、これらを保存、継承するだけでなく、近代的な都市景観など、新たな景観形成を図るとしています。</p> <p>市民の皆様が本市の歴史や文化に触れ、関心を持っていただくことも重要であり、これまで市民に親しまれてきた歴史資源や景観をしっかりと次世代に引き継ぎつつ、新たな魅力を感じられる空間の創出についても今後の施策の実施において留意していきます。</p>
10	<p>足羽山や足羽川の空間は、生活景観としても大事にしたいものですが、「賑わい」の醸成も兼ねるには、もっと違う工夫が必要と思われれます。なお、県都として意外に足りていない点の一つに、「市内を一望できる公共空間が無い」、あるいは「眺望として価値のある視点場が減っている」という点も、認識しておくべきだろうと思います。</p>	<p>足羽山や足羽川は、四季が感じられる都市内の大切な自然資源であり、本市の大きな特徴となる場所です。</p> <p>眺望スポットに関して、中心市街地に近い足羽山は、観光客等に気軽に訪れていただきたい場所であると考えています。</p> <p>自然史博物館の屋上の「白山テラス」など、市街地を一望できる場所もあることから、これらのPR強化など、本市の新たな魅力を伝えていきます。</p>
11	<p>市において、予め「有償」として報奨金を支払うルールを設け、予算を留保し、随時、臨時的に、個人で除雪作業に従事できる人を募り、采配指導である程度の組織的な除雪をすることができたとしたら、早期に生活道路の危険個所の緩和が進んだ可能性はあったのではないのでしょうか。</p>	<p>除雪には市民の協力が必要であると考えており、これまでも、幅員が狭い道路等の除雪を住民主体で実施できる環境を整備するため、福井市小型除雪機購入補助事業や福井市道除排雪事業協力金等を設けています。</p> <p>道路の除雪作業費用などを助成している事例も参考に、よりよい制度となるよう研究していきます。</p>
12	<p>業者のダンプが運ぶ残雪の集中捨て場所は、大型重機の必要上、足羽川の河原の2か所に絞られていたと思えますが、市民ボランティアが随時行う小回りの除雪の場合には、各地域と学校、教育委員会の了解のもとで、暫定的に学校の校庭の一面なども利用できたのではないのでしょうか。</p>	<p>今回の大雪では、足羽川の河原をはじめとする6箇所(箇所)の雪捨て場と、211箇所(箇所)の公園も雪捨て場として利用しました。</p> <p>小学校の校庭については、平成30年2月の大雪の際に雪捨て場として利用しましたが、施設に不具合等が生じたため、今回の大雪では利用しませんでした。</p> <p>除雪協力企業や自治会等と協議のうえ、道路除雪を行った市民ボランティアが地域内の公園を雪捨て場として利用することは有効であると考えます。</p>

13	<p>福井県はかねてから、他県に比べて全般にボランティアの意識が高い地域であると言われてきたように思いますが、今の福井市で実感することは、高齢化した中心部と新興の周辺市街地とに二極化する中で、住民同士の関係が希薄化し、コミュニティは衰退を早めている。その中でも、「啓発」や「指導」の方法で、地域の問題にその地域内で「ボランティアに期待する」（しかも「無償」で）というだけの発想には、限界が来ていることを、はっきり認識すべきではないでしょうか。</p>	<p>市民活動が活性化していくことは、地域の課題解決のために必要なことと考えています。</p> <p>地域の活動に多くの市民が積極的に参加していくための働きかけや支援が求められていく中で、ボランティア活動をめぐる新しい動きにも注視しながら、効果的な方法を検討していきます。</p>
14	<p>今の市は、こうした「無償奉仕」の前提を市民活動の全般にまで認識しながら、「市民協働」が必要であると謳い、「地域共生社会」に向けた取り組みを進める、といった方針を謳っています。しかし、高齢化が進んで奉仕力を出せなくなった地域や、都市生活化してコミュニティ意識が薄まってしまった地域から、市の主導の啓発でボランティアの徴発はできるのでしょうか。</p>	<p>地域の活性化のためには、ボランティア団体や市民活動団体と行政との市民協働は必要であり、市内に限らず、幅広い地域からの人材を持ったNPOなどの市民活動団体や地域団体などの協働をコーディネートしていきます。</p>
15	<p>各地区には「自主防災組織」が設けられていて、市は育成を謳っているようですが、多くは有名無実と聞きます。「育成」で災害時に機能が期待できる公算は本当にあるのでしょうか。</p>	<p>自主防災組織は「自分たちのまちは自分たちで守る」という「自助・共助」の精神のもと、災害時に地域による積極的な活動が期待される組織です。</p> <p>組織結成後における各種の防災活動を行ううえで、人材や組織の育成は最も重要であると考えます。</p> <p>総合防災訓練等においては、自主防災組織等が中心となって、避難訓練、初期消火訓練、応急手当訓練や防災資機材の取り扱い訓練等を重点的に実施しています。</p> <p>現在、危機管理課は本市の防災行政全般に関する出前講座や、リーダー研修等を開催しています。</p> <p>今後も地域の自助・共助の柱である自主防災組織に対し、研修会、出前講座、個別指導等を通じ、防災意識の高揚と地域の防災力向上を図っていきます。</p>
16	<p>今回の総合計画を機に、市民ボランティアに対して「有償」を前提に、居住地の仕切りを超えて協力を募ることについて、各部局の中で、効果のありうる市民協働事業がないかどうか、検討をしてみてもよいのではないのでしょうか。</p>	<p>ボランティア団体やNPOなどの市民活動団体は、市域、県域を超えて活動しており、今後も市民協働していくことで効果の高いものについては、積極的に検討していきます。</p>
17	<p>施策では「再生可能エネルギー設備や省エネルギー機器の普及に加え…」といった弱い表現にとどまり、「太陽光発電」など、具体的なキーワードへの言及は避けたように見受けられます。</p> <p>太陽光発電設備の設置は、全国の普及水準に比べると進んでいない印象を受けます。県内の他の市町ではむしろ、特に農業の担い手が減った農閑地で、営利事業として太陽光発電パネルの敷設が増えている印象もあります。福井市ではどう認識されているのでしょうか。</p>	<p>太陽光発電設備の設置については、今年度の地球温暖化対策推進法の改正に基づき、今後、国が示す方針や政策を注視し、国の支援等を積極的に活用しながら取り組んでいきます。</p> <p>また、立地条件や地域特性等に左右されるところがあるため、条件等をしっかり精査したうえで、適地に設置していきます。</p>

18	<p>福井市の処理施設は現在、東山のクリーンセンターのほか、燃やせない粗大ごみへの対応もあり、あわら市の笹岡と鯖江市の広域カバー施設に処理を分担してもらっているようであり、東山のクリーンセンターについては、耐用年数の経過を迎えるため、すでに代替施設が隣接地で建設される予定と知りました。施策として挙げられている「エネルギーの効率的回収」は、主にこの建設計画施設での発電効率を上げることを意味していると思うのですが、いかがでしょうか。</p>	<p>新ごみ処理施設では、熱エネルギーを最大限活用するため、廃熱ボイラで蒸気として熱エネルギーを回収します。回収した熱エネルギーについては、隣接する福井市東山健康運動公園のプールに熱供給するとともに、工場内で必要な熱として活用します。残りの熱については、最新の発電設備を導入し、発電効率の高い発電を行います。</p> <p>これらの熱供給や活用、発電を行うことで、ごみ焼却により発生したエネルギーを効率的に回収し、温室効果ガスの削減に寄与していきます。</p>
19	<p>小規模の焼却処理施設を市街地の近郊に置けるのであれば、スポーツ施設での温水利用の発想以上に、冬季限定の季節稼働を前提として、融雪場に使う、高速道路沿いや幹線道路沿いに設けて道路の融雪水温を上げる、といった発想をすることも、時節柄、これからの北陸では必要ではないでしょうか。</p> <p>東山のクリーンセンターの建設方針はすでに変えられないでしょうが、国の従前方針を万全とはせず、今から5年の間には、むしろ市民に近い市街地近郊での熱エネルギーの利用方法を模索していく方が、より先進的になるような気がします。そこでなら、「地域の市民」の力も引き出しやすいかもしれません。そうした検討を通しての方が、市民の認識を変える方策が、より見つけられるのではないのでしょうか。</p>	<p>新ごみ処理施設の整備にあたっては、まず将来のごみの量や質を予測し、必要な施設や設備の検討を行い、加えて排ガスや焼却灰等の処理方法、発生熱エネルギーの活用方法についても検討しました。</p> <p>今回の新ごみ処理施設の整備においては、市街地近郊に小規模の焼却処理施設を設置しての熱エネルギーの利用への転換は困難と判断したところです。</p>
20	<p>野良猫や、野良犬、保護されたものの、命ある弱いものに寄り添える街でありたいです。譲渡の場所をふやしたり、話し合えるイベントなどがあるとよいと感じます。</p>	<p>第八次福井市総合計画においては、守り伝えたい地域の優れた自然や生き物の保全・再生活動を支援することを施策に位置付けています。</p> <p>ご意見は、今後の施策の推進にあたっての参考とさせていただきます。</p>
21	<p>施策「②創業の促進と事業承継の円滑化を支援する」とありますが、事業承継については、「行政が第三者的に円滑化を支援する」というよりも、文章内に記載があるように、「時代のニーズに合わせて事業をモデルチェンジしながら承継されるよう積極的に促進する」というニュアンスを入れた上で、シンプルな施策タイトルにしてはどうでしょうか。（例えば、→「創業や事業承継を促進する」）</p>	<p>施策②の取組内容に即した分かりやすい施策タイトルになるよう、素案を修正します。</p>
22	<p>政策10の説明に、「ものづくり技術の高度化や魅力ある産業の育成、創業支援の推進により地域経済を活性化します」とありますが、「ものづくりの技術を高度化する」というよりも、施策の文章内に記載があるように、「ものづくり産業の高い技術力を活かして、様々な事業展開、産業の発展につなげる」というニュアンスにしてはどうでしょうか。（例えば、→「ものづくりの高い技術力を活かした魅力ある産業の育成や創業支援の推進により地域経済を活性化します」）</p>	<p>政策10の取組内容に即した分かりやすい説明文になるよう、素案を修正します。</p>

23	<p>観光に関する政策の中で、「国内外の観光客に、福井の魅力をしっかりと伝えることができる観光ガイドを育成する」とあるが、その観光ガイドに福井にゆかりのある学生（県内の学校に通っているなど）を任命してはどうか。</p>	<p>観光ガイドには、おもてなしの心に加えて、福井の魅力に関する豊富で正確な知識と、それをわかりやすく伝える技術が求められることから、ガイド育成講座等を受講していただきたいと考えています。</p> <p>様々な関心を持つ観光客のニーズに応えるため、学生や若者にもガイドとして活動してもらえよう、講座の周知や募集方法について検討していきます。</p>
24	<p>具体策（実施計画）の別途作成にあたり、加えて頂きたい具体策。 観光地を訪れる人は、老若男女であります。足腰が丈夫な方々ばかりではありません。起伏にとんだ散策ルート途上や広い園内の展望良き場所に、しばし腰を下ろせる“一服休憩所”を随所に設置。（福井県産のねばり強く、少し赤みがかった木目の杉材で、丸太半割りを活用し、朝倉氏遺跡では道の駅～県立博物館～下城戸～復元街並み、唐門前広場～諏訪館庭園の区間に）</p>	<p>現在、朝倉館前広場や2箇所の庭園内にはベンチが設置されておりますが、散策ルートの随所にはベンチが置かれていない状況です。いただきましたご意見を参考に設置を検討していきます。</p>
25	<p>具体策（実施計画）の別途作成にあたり、加えて頂きたい具体策。</p> <p>一乗谷は、「悠久の里」と指定されています。その醍醐味の一つは、一乗滝の水しぶきです。涼を求めて多くの方が訪れますが、2004年の豪雨以来、あまり手入れが行われていません。滝周辺を散策する人の安全が確保されるよう整備をお願いします。</p>	<p>一乗滝については、現在、草刈りなどの維持管理を中心に行っています。今後、北陸新幹線福井開業に向けて、より安全にご利用いただけるよう対策を検討していきます。</p>
26	<p>具体策（実施計画）の別途作成にあたり、加えて頂きたい具体策。</p> <p>一乗谷には、市街地から自転車で登ってくる市民やサークルが、休日を中心に多くなっています。朝倉氏遺跡から、5km程をずっと登ってきますので、途中で簡易な“水飲み場、手洗い所”を設けて、福井のおもてなし「福いいネ！」に少し近づくとと思います。</p>	<p>新たに水飲み場、手洗い所を設けることは考えておりませんが、経路に点在している小次郎の里ファミリーパークや一乗滝観光トイレなどの公共施設をご利用いただけるよう周知していきます。</p>
27	<p>「観光資源を磨き上げる」とありますが、観光の要素が見えてきたものを、新たに故意に「資源を磨く」といった発想をしては、テーマパーク的な魅力しかつukれないのではないのでしょうか。「施策」として表現できるものではありませんが、それよりも逆に「住んでいる人よりも旅行者の方が見つけられる魅力」という点に意義を見出したコンセプトの方が、絶対に福井らしい魅力として成立すると思います。</p> <p>県外から来た人が感性として指摘するのはそれであり、元々が金沢のような文化的統一がなく、宣伝下手であったわけですから、むしろ意図して「磨こう」と考えると、さらに魅力を失ってしまう可能性があると思います。</p>	<p>「観光資源を磨き上げる」については、旅行者のニーズの多様化（体験・交流型、少人数・個人型、ワーケーションなどの新しい旅のスタイル）への対応や環境整備を行うことで、来訪する観光客への満足度や再来訪意欲につなげていきたいと考えています。</p> <p>あわせて、旅行者が見つけた福井の魅力を、観光コンテンツのさらなる充実を活かす好循環につなげていきます。</p>

28	<p>「政策11の③」の「市民が福井の良さ「福いいネ!」を実感するとともに、オール福井で観光客を温かく迎え入れることができるよう…」といった考え方や、「政策12の②」の「福井固有の歴史・文化の価値を地域住民が体感し、自ら福井の魅力を発信できるよう、意識の醸成を図ります」といった、上から目線の表現にも、とても危うさを感じられます。</p>	<p>政策11については、市民の皆さまに理解を深めていただき、観光やおもてなしの重要性を共有できるよう努めたいと考えています。</p> <p>政策12については、歴史や文化を継承していくには、市民自らが個性や魅力ある福井の文化・歴史に触れ、その価値に気づくことが重要であると考えています。</p> <p>そこで、施策の文言中には「体感」のキーワードを入れ、体験を通した「気づき」を重視した内容としています。</p>
29	<p>福井市のおもてなしの入り口、足羽山の花見シーズン交通手段について、土日は交通規制が行われる為、県外の方々や、地元の方が、足羽山の春を楽しめるために、花見専用のシャトルバスを運行していただきたいです。</p> <p>競輪場からの乗り換えで、マイカーが、置けるといような方が利用しやすいかと感じます。</p>	<p>例年、桜の花見シーズンに合わせて、給水管理事務所から足羽山遊園地を往復するシャトルバスを運行しています。</p> <p>北陸新幹線福井開業時にはさらに多くの観光客が本市を訪れることが予想されるため、シャトルバスの運行等、観光客の方に花見を楽しんでいただけるような方法を検討します。</p>
30	<p>子供が歴史、自然に興味を持つために魅力的な施設が福井市にはあるので活用すべき。</p> <p>現在、文化財保護センターでは「やってみねま」という体験コーナーがあるのに土日祝日が休館のため非常に利用しづらい。土日開館していただくと子供連れでも利用しやすいと思う。</p>	<p>文化財保護センターは、土日祝日を休館していますが、福井の歴史や文化財にご理解いただくため、小学校の夏休み・秋休み・春休みの期間において、展示会等を開催し、期間中の土日祝日を開館しています。</p> <p>また、この期間以外の土日祝日についても、公民館や団体等から依頼があった場合などには開館するなど、市民の方が利用しやすい環境を整えています。</p>
31	<p>施策として、「②歴史や文化遺産を保存継承し活用する。」となっています。</p> <p>一乗谷朝倉氏遺跡の「保存管理計画策定事業報告書(改訂版)」(H23.3月市教育委員会)によると、山林遺跡の整備に関しては、土地所有者の意向を踏まえ、公有化を進める、発掘整備を行う。としていますが、近年は公有化等の動きが無いと聞いています。</p> <p>山城跡地周辺(C1エリア)は復元に向けて、作業の活発化を願うとともに、他の山林(C2エリア)の土地所有者に対しても、意向の確認を実施して、土地所有者が育て・利用期を迎えている人工林の扱いを選択できる環境を整えて頂きたいと強く願っています。</p>	<p>遺跡山林部の公有化については、重要な遺構が存在しているところが優先されるべきものではありますが、全体的に進めていく方針としています。</p> <p>今後も、保存管理計画に基づき、土地所有者の意向を踏まえ、計画的に取り組んでいきます。</p>

32	<p>「政策12」の中の「歴史的価値が高い文化遺産や伝統行事」や、②にある「福井固有の歴史・文化の価値」についても、福井の何がそれに当たるのかをもう少し明確な共通認識にしておかないと、市民理解の割れる事業を進めてしまうおそれがあると思います(駅前の恐竜ロボットへの賛否は非常に貴重な例であると思います)。</p>	<p>国の三重指定(特別史跡、特別名勝、重要文化財)を受けた一乗谷朝倉氏遺跡、名勝指定の養浩館庭園、国の重要文化財である大安寺、重要な文化的景観に選定された越前海岸の水仙畑、国の重要無形民俗文化財である糸崎の仏舞や陸月神事など、本市にはたいへん貴重な歴史的な文化遺産が数多くあります。</p> <p>これらは、いずれも長い歴史の中にあつて、地域の方々が大切に保存継承してきた文化遺産や伝統行事です。関連する茶の湯や文学も含め、これらの価値を十分に認識し、後世に残していかななくてはならないと考えています。</p>
33	<p>市の役割の一つとしては、古くて無価値とわれてきた「庶民遺構」を、できるだけ壊さずに残すこともありと思います。利用できる着想者が現れるまで環境整備に徹することも一つの選択肢と考えます(新栄テラスがイメージにあります)。</p> <p>FBCの夕方のローカル番組(「足元遺産」)で紹介された景観や遺物は相当の数に登りますが、数はあっても深められていません。しかし、市の学芸員や図書館司書の人達も巻き込んで、書籍化をしておくくらいの準備をすれば、マイナー志向の観光客を引きつける素材になるように思われます。</p> <p>「文化政策」も兼ね、市役所の内外でそうした事の出来る人材を、職員の中で増やしておくの方が先決のように思われます。</p>	<p>本市では、市職員が住民主体の地域づくり活動に参画する「地域担当職員制度」により、地域の歴史や文化を活かしたまちづくりへの支援などを行っています。</p> <p>ご意見は今後の施策の推進にあたっての参考とさせていただきます。</p>
34	<p>足羽山のさくらのシンボリックな見どころを何か所か作っていただきたいです。足羽山のさくら守りをしていただき、新しい種類の苗木を植樹し、足羽神社の桜のような感動できる場所を増やして見どころを増やして欲しいです。</p>	<p>今年度から、コナラやアカマツ等の枯木を伐採し、伐採した場所の環境条件や樹木特性を考慮したうえで、サクラまたはモミジの植栽を進めています。</p>
35	<p>学校におけるSDGsの学習の実施については、学校によってばらつきがあり、それに伴い子どもの理解度にも差が出ていると思われる。</p> <p>将来を担う子どもたちにSDGsについて理解してもらうためにも、学校のカリキュラムにSDGsについて学ぶ時間を組み込んではいかがでしょうか。</p>	<p>SDGsについて、本市の全ての小学校において高学年の社会や家庭科で、また、全ての中学校において家庭科、社会(地理・歴史・公民)、3年生の英語と理科の各教科で学習しています。加えて、全ての小中学校の道徳教育の中で、人権や自然環境、国際理解などSDGsに関わる内容について学習しています。</p> <p>今後も、「持続可能な社会の一員」としての自覚を高める学びを、子供たちの発達段階に応じて、学校教育の様々な場面において取り組んでいきます。</p>
36	<p>今の時代の子供に合った内容、楽しめる学習を海外からも取り入れていただきたいです。</p>	<p>諸外国での取組と同様、子どもたち一人一人の個性を引き出し、子どもたちが主役となる学習や、子どもたちが学ぶ喜びを味わえるような学習を本市でも推進しています。今後も子どもたちの学びが充実するよう努めます。</p>

37	<p>「ボランティア活動」を支援する(政策5)、といった施策姿勢が窺われますが、それらの市の組織の受け皿としては、「総合ボランティアセンター」は「拠点」でしかなく、市民、特に地域住民との直接のつながりの役割は、「公民館」組織に最も負わされていくように見受けられます。</p> <p>そうした場合、「全国的にも高い評価を得ている」からといって、今の公民館の定員・人材や制度のままで、求められる仕事の種類はこなせるのでしょうか。人材の数が育っていないまま、役割期待のみ増やすのは、問題ではないでしょうか。</p>	<p>公民館職員は、地域での生涯教育を推進するとともに、「地域のコーディネーター」として、地域住民への支援及び各種団体の連絡調整を行っており、職員の資質向上のための研修を行っています。</p> <p>また公民館による地域の支援のほか、市では平成28年5月に「地域担当職員制度」を設け、市職員が住民主体の地域づくり活動に参画し、地域との関わりを積極的に進めることにより、地域の様々な課題への対応や、協働のまちづくりの推進を図っています。</p> <p>また総合ボランティアセンターでは、応援を求める人と応援したい人とをコーディネートしており、センターを中心としてボランティアの裾野拡大に取り組んでいます。</p>
38	<p>審議会の部会の論議の中では、「公民館」はこれまでの「生涯学習」の流れを踏襲し、教育委員会傘下のままなのか、市長直轄の部局の下の「コミュニティーセンター」になっていくのか、方針ははっきりさせるべきではないか、といった指摘もあったと思います。それがどのようなものであるのか、市民にとって有益であるのか否かはよくわかりませんでした。</p>	<p>福井市の公民館は、地域の拠点として地域のまちづくりに関わるとともに、生涯学習の場として、地域の実情に即した各種の教育事業を展開しています。</p> <p>本市の公民館は、文部科学省から最優秀館に選ばれるなど全国的にも高く評価されており、その活動が地域に還元されていると認識しています。</p> <p>現在の公民館は、教育事業と地域づくりへの支援がバランスよく行われていると考えており、現在の運営体制を継続していきます。</p>

#### 4 その他（計画全体について）

	提出された意見	意見に対する市の考え方
39	<p>専門用語が多く使われているものの、注釈が無い ため、内容が伝わらない。市民にとっても大切な 計画であるので、見る側を意識して欲しい。 （「合計特殊出生率」「二次交通」「地域おこし協力 隊」「成年後見制度」「生産推奨品目」「ECサイト」 「VR」「観光おもてなし市民運動」「クラウドファン ディング」）</p>	<p>市民に対して分かりやすい総合計画とするた め、素案を修正し、専門用語に注釈を追加します。</p>
40	<p>全体として総花的・縦割りのにすぎような印 象と、どの部分も至極あたりまえの「望ましき表 現」ばかりのため、かえって悩ましさが残りました。 具体的な事業計画をする前の段階の「方向性」 の表現であるとはいえ、「施策」のどの項目も当 たり障りのない文言で、「〇〇を進めます」の前に、 事業手段などの具体性の言及が少なく、実際の新 たな事業計画のイメージはあえて掴めないように しているのではないかと、といった印象です。</p>	<p>総合計画は、市政運営の基本的な方向性を定め るものであり、具体的な事業等については総合計 画に併せて策定する実施計画等で定めていきま す。</p>
41	<p>大方の市民の目線から言えば、具体的に何がこ れから始められる可能性があり、何を承知してお かなければならないのか、そうしたメリハリのポ イントをもっと知りたい、ということがあるのだ ではないでしょうか。</p> <p>あるいは、本来の市民側の強い関心事として、 市の個々の政策の課題に、財政事情から予算の限 界がどのようにあり、どの施策が優先にされ、対 処が急がれるのか、どの施策は後回しになりうる のか、といった事こそ知っておきたい、と思う向 きも多いのではないのでしょうか(例えば、除雪費が 嵩んで文化会館の建て替え計画が頓挫したと言 われているのは本当か、今後の方向性はどうなっ ているのか、といった事です)。</p>	<p>総合計画は、市政運営の基本的な方向性を定め るものであり、具体的な事業等については総合計 画に併せて策定する実施計画等で定めていきま す。</p>
42	<p>今回のパブコメの対象は、議会にかかる前の「素 案」とはいえ、十分な審議を経た結果でしょうか ら、この先に文言レベルの加除等は想定されてい ないのだろうと承知しますが、例えばフェーズの 違う、「切り出しコラム」のような場所を新たに設 けるなどして、審議会の中に出されていた主な具 体化すべき点の指摘や、部局間でさらに検討協議 をすべきと認識するポイントなどを拾遺して掲載 しておく、といった方策はあるのではないでしょ うか。</p>	<p>総合計画審議会において委員からいただいた 意見については、その対応を市のホームページに 掲載しています。</p> <p>また、いただいた意見のうち、答申案への反映 には至らなかった意見については、引き続き検 討・協議を行っていきます。</p>
43	<p>総論で触れた、予算、財政問題とともに、市と して組織構造をどう変えていく予定であるのか、 といった側面にも、「総合計画」は触れて然るべき ではないかと感じています。</p>	<p>組織構造については、「総合計画を推進するた めに」の部分において、「様々な行政課題に的確 かつ機動的に対応できる組織体制を整備しま す。」として記載しています。</p> <p>また、予算や財政状況についても、総合計画に 合わせて策定する実施計画の中において、しっか りと明記します。</p>